評議員会議事録

日　時：2006年1月28日(土)11:00～16:00
場　所：国立天文台南研大会議室
出席者：安東，家，大橋，小杉，佐藤，観山，山本，井上，岡村，海部，郷田，柴田，須藤，永田，宮川，渡部　以上16名
有効委任状提出者：池内，谷口，中川　以上3名
欠席者：梅村　以上1名
ほかに理事会から祖父江理事長，黒田副理事長，花岡・杉山・北本・関井理事，また河合研究奨励賞選考委員長，山岡天体発見賞選考委員長，および東條事務長が出席した．
議事に先立ち自己紹介を行い，次いで議長および署名人を選出した．
議　長：観山正見
署名人：大橋隆哉，小杉健郎

報　告

1. 前回議事録の確認(資料1)
   前回(2005年10月7日)の評議員会議事録が報告され，原案どおり承認された．
2. 次回年会およびそれ以降の年会について
   花岡理事より，2006年春の年会については会場の準備は順調で交通・宿泊の手配や関係各方面との打ち合わせなどが進行中である，講演申し込みは614件である，2006年秋の年会については公開講演会の後援依頼や補助金の申請等準備が進んでいる，等が報告された．また，2007年春・秋の年会の準備状況についても報告された．さらに100周年記念の年会となる2008年春については祖父江理事長から東大に検討を依頼中であることが紹介され，会場の候補や協力体制について議論があった．
3. 創立100周年記念出版の進捗状況について
   岡村編集委員長より経過と進捗状況について報告があり，原稿の集まり具合は6割程度，最初の3巻は今年3月に編集作業を完了して年内に発行の予定，とのことである．また北本理事より，担当出版社である日本評論社との契約について，全体の2,500万円のうち年内に1,000万円を支出するという形となる，との報告がされた．
4. 百年史編纂の進捗状況について
   北本理事より，担当出版社を恒星社に決定したこと，製作費と送付事務費として学会から564万円支払うこと，について報告がされた．
5. その他
   (1) 早川基金選考結果の報告(資料2)
   資料に基づき2005年度早川基金選考結果が報告された．採択率が高いのでむしろ採択を絞って半額支給を減らしてはどうか，との指摘があった．半額支給は必要なのか，やめてはどうか，との意見に対しては，自由度がないと申請数の増減に対応しにくい，との指摘がされた．申請が減っている傾向もあり，選考委員会・理事会で支給の仕方について今後さらに検討する．
   (2) 年会規模の拡大の見通しと対策について(資料3)
   花岡理事より，年会の規模が拡大しつつあることについて今後の対策を理事会で議論し，当面春のみ4日にしてみるのが現実的ではないか，2008年春は100周年でいずれにせよ4日間となる，2008年秋は3日でよいのでは，との結論になったとの報告がされた．
   (3) 天文オリンピックについて(資料4)
   花岡理事より，2005年北京で開催された天文オリンピックにオブザーバーとして参加した高橋淳・洞口俊博両氏の報告をうかがう会を12月26日に行ったことについて報告がされた．オリンピックと称していても実態は他の科学オリンピックと異なり国際集会としてははなはだ未熟でローカルな行事であるとの報告であり，またこれをもとに理事会としては日本が天文オリンピックに参加することには消極的にならざるを得ないという結論を出したことが報告された．
   (4) 会員名簿発行について(資料 5)
   花岡理事より，今年予定している会員名簿発行に関連して現在の状況や他学会の動向を資料として学会事務でとりまとめたものを紹介し，理事会では議論の結果今年については従来どおり名簿を発行するという結論となった，との報告がされた．情報学会など参考にすべき他学会の方式がある，会員が名簿掲載自体を断ることを希望した場合どうするのか，などの指摘があり，理事側で調査することとなった．
   (5) 講師派遣キャンペーンについて(資料6)
   関井理事より講師派遣キャンペーンについて，関係機関への通知文を送って広く宣伝し費用を学会で負担して講師を派遣する計画である，との紹介があった．JAXAでの類似の例として，JAXAの費用負担で講演会を年間70～80件実施しているが，無料でやってもらえるので聴衆側に問題があることがある，との紹介があり，実施に当たっては依頼側の熱意を確認すること，宣伝の際の文言にも注意が必要であること，が指摘された．

議　題

1. 2005年各賞受賞者の決定
   (1) 山岡天体発見賞選考委員会委員長より，1月23日に西はりま天文台において開催した選考委員会において天体発見賞候補者6氏10件・天体発見功労賞5氏6件・天文功労賞2氏2件の推薦を下記のように決定したとの報告があり，これを承認した．
   天体発見賞　板垣公一(4件)，西村栄男(2件)，広瀬洋治(1件)，佐藤裕久(1件)，高尾　明(1件)，市村義美(1件)の各氏
   天体発見功労賞　長谷田勝美(2件)，櫻井幸夫(1件)，西村栄男(1件)，鈴木雅之(1件)，佐野康男(1件)の各氏
   天文功労賞　長期的な業績として佐藤　健氏，短期的な業績として大塚勝仁氏
   (2) 河合研究奨励賞選考委員会委員長より，12月14日東工大にて開催した選考委員会において10件10氏の候補より下記の研究奨励賞の候補3件3氏の推薦が決定されたとの報告があり，これを承認した．
   研究奨励賞　大向一行，佐藤文衛，吉田直紀の各氏
   (3) 林忠四郎賞選考委員会委員長の代理として祖父江理事長より，12月11日東大で開催した選考委員会において，林忠四郎賞については5件の候補から下記の1件，欧文報告論文賞については4編の候補から同じく下記の2編の推薦を決定したとの報告があり，これを承認した．
   林忠四郎賞　牧島一夫氏
   欧文報告論文賞　Maihara et al. 53巻25-36頁，2001年，および Hirabayashi et al. 52巻，955-965頁，2000年の各論文
   なお，これらの賞の受賞資格について，年齢については「年度開始時」，論文については「最近5年間」といった表現がされているものがあるが，基準をより明確にわかりやすくすべきであるという指摘があった．また，人物の評価においては評価対象の論文の出版年を厳密に問う必要はないのでは，との指摘もされた．さらに，林賞の対象者について議論があり，今後も活躍が期待される中堅層を主な対象とすべきで，そういう方が多く推薦されることを期待したい，との結論であった．研究奨励賞については，観測方面で活躍されている方の被推薦数がやや少なくバランスを欠いているかに見受けられるので，推薦権をもつ会員に注意を促す措置をとるべきとの指摘もあった．
2. 2005年度事業報告書案(資料8)
   花岡理事より事業報告書案について説明があり，質疑応答の後，承認された．各種の賞や助成金への推薦実績を示したほうが学会としての活動がよくわかるのではないか，との指摘があり，検討することとなった．また学会に案内や推薦依頼がきている賞・助成金の一覧・締め切りを月報等に掲載すればより推薦・応募を行いやすくなるのではないか，との指摘があった．
3. 2005年度決算報告書案(資料9)
   北本理事より決算報告書案について説明があり，質疑応答の後承認された．
4. 2005年度監査報告書(資料10)
   家監事より，2006年1月10日に実施された監査の結果正当であることが認められた旨の報告があった．
5. 2006年春季定期総会の議題等(資料6)
   資料のとおり2005年度事業報告書案・決算報告書案・監査報告を議題とすることで承認された．なお，報告のセクションの中で特に Asian-Pacific Journal についての報告と議論を行う．
6. 会費未納による除名者名簿(資料12)
   花岡理事より資料にもとづき説明があり，承認された．合わせて，高校生相当の方の正会員入会希望があったことについて，正会員は天文学に相当の見識がなければならないとの認識から理事会では準会員での入会を勧めることとしたこと，今後正会員の対象年齢等を明確に設定するかどうか検討したいこと，が報告された．一方，若くして天文学会に入りたいという熱心な方には，正会員になれないということでやる気をなくさないよう注意すべきである，との意見があった．
7. Asian-Pacific Journal について
   花岡理事より，経過と第1回ワーキンググループの議事の報告があり，あらためて議論を行った．PASJ をやめて Asian-Pacific Journal に合流する場合，レベルを落とさないことが最重要であるが現実には難しいと思われるので合流は困難，との見解が出され，PASJ と Asian-Pacific Journal の並立がもっとも現実的であり，その上でできるレベルの協力をすればよい，との意見が多数であったので，その方向で対処していくこととなった．参加を決めている各国でも個別の研究者のレベルでどの程度 Asian Pacific Journal に積極的なのか，レベルの高い論文が Asian Pacific Journal に投稿されるのか，との指摘もされた．
8. その他
   (1) 新規事業諸案の実施・検討状況(資料9)
   関井理事より，新規事業案の実施および検討状況の報告があった．
   (2) 評議員選挙施行細則付則の削除(資料11)
   花岡理事より，評議員定数の改正(30名→20名)に伴って，改選時の混乱を避けるためにつけられていた付則について，昨年の評議員選挙をもってその役割を終えたので削除することを秋季総会の議題としたいとの提案があり，これを承認した．
   (3) 日本学術会議の状況について
   海部評議員より，変更になった新たな組織について，会員210人に加え連携会員1,800人で構成され，規模は従来と変わらない，連携会員は選考中であり，天文も含まれる物理学委員会は20名強との見通しである，IAUなど対応が必要な事柄があるので，3月にも仮分科会を開催する予定である，との報告がされた．
   (4) 年会の規模拡大への対応について
   パラレルセッション数が多くなりすぎるので講演時間を少々短くすることも検討すべし，などの意見が出され，本日報告された年会規模拡大の見通し・対策について，理事会でさらに検討を進めていただき，評議会で引き続き議論することとなった．
   (5) 科研費審査員
   杉山理事より，科研費審査員については学術振興会で候補者データベースを作りつつあり，審査員にふさわしいと思われる研究者の情報を学会から提供する仕組みが整備されつつあることが報告された．学会として推薦者リストをまとめるためには現在の候補者データベースの中身やその後の取扱いなどの情報が必要で，まずは天文分野のプログラムオフィサーとの相談などにより情報を集めて対応策を考えることとなった．
   (6) 次回以降の評議員会日程
   次回は春季年会中，3月28日の昼休みに開催し，次々回は7月8日(土)11:00より国立天文台(三鷹)で開催することとなった．

2006年2月21日
議　長　観山正見
署名人　大橋隆哉
署名人　小杉健郎